

レファレンスコーナー

県立図書館に寄せられたレファレンスの事例を紹介します。



Q. 雪の研究で知られる「なかやうきちろう中谷宇吉郎」が書いた記事で、終戦直後に復刊された雑誌に掲載されたものが読みたい。

〔回答〕

雑誌に掲載された記事の調査には、①雑誌タイトル、②掲載されていた時期、③著者、④記事の内容が調査のポイントになりました。この場合、タイトルは不明、戦後に復刊された雑誌の第1号で記事の内容は「戦後・終戦・敗戦に関するもの」ということでしたので、【大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録】(参考文献1)の中谷宇吉郎の項目を調査したところ、昭和20年(1945)10月に「原子爆弾雑話」という記事が「文芸春秋」に掲載されていることが分かりました。【国立国会図書館サーチ】(参考文献4)で「文芸春秋」を検索すると、記事が掲載された号は昭和20年(1945)2月に発行されていることから、戦後の第1号という条件にも該当します。【国立国会図書館サーチ】で「原子爆弾雑話」を検索すると『中谷宇吉郎随筆集』(参考文献2)に収録されていることが分かり、当館に所蔵がある該当資料をご案内。依頼者に確認していただき、「この記事だった!」とのお言葉をいただくことができました。

〔雑誌記事検索に役立つツール〕

- ◆『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録 人名編』(参考文献1)では、大宅壮一文庫が所蔵する約6,500種類24万冊の雑誌のうち、明治から昭和59年(1984)4月までのおよそ2000種類に掲載された人物記事の索引です。このほかオンラインデータベース『WebOYA-bunko』では昭和63年(1988)以降の雑誌記事索引、約300万件から検索することができます。
- ◆『国立国会図書館NDL雑誌記事索引』(<https://ndlopac.ndl.go.jp>)
国立国会図書館が収集・整理した雑誌のうち固有の論題をもつ記事をデータベース化したものです。採録誌は10,765誌あります。(平成24年4月18日現在)。
- ◆『CiNii Articles』(<http://ci.nii.ac.jp/>)
論文や図書・雑誌などの学術情報を検索できるデータベースです。NDL雑誌記事索引に国内の大学などが刊行する日本語の研究紀要、引用文献索引データベースの記事索引を合体させたもので、論文本文にリンクがはられているものもあります。
- ◆『日外アソシエーツ雑誌・論文情報 MAGAZINE PLUS』オンラインデータベース
国立国会図書館・雑誌記事索引(1946～)、記念論文集、一般論文集、シンポジウム・講演集(1945～2003)、学会年報・研究報告(1945～2002)、一般紙・総合誌・ビジネス誌(1981～)、ほかに海外産業・企業誌紙(1984～2005/約60誌紙)、国内経済専門・業界誌(1981～1995/約1300誌紙)も検索できます。

〔調査プロセス〕

1. 【大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録】(参考文献1)を調査。
2. 1の情報をもとに【国立国会図書館サーチ】(参考文献4)で記事が掲載されている巻号を確認。掲載されている巻号は当館には所蔵がないため、記事が収録されている著作集を確認。



〔参考文献〕()内は当館請求記号

- 1.『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録 人名編4』大宅壮一文庫 1985年 (R/027.5/オ1/1-4)
- 2.『中谷宇吉郎随筆集』中谷 宇吉郎//[著] 樋口 敬二//編 岩波書店 2006年 (914.6/ナカ)
- 3.『「文芸春秋」にみる昭和史 第1巻』文芸春秋//編 文芸春秋 1988年 (210.7/ブ1/1-1)
- 4.国立国会図書館サーチ(<http://iss.ndl.go.jp/>)



Q. 江戸時代の飛脚制度、できれば岩手県のものを知りたい。

〔回 答〕

江戸時代の早飛脚について『目で見る盛岡今と昔』に、次のような記述があります。

「藩の非常御用によって各宿駅、或いは村毎（一里処のある）に常に足の速い運搬人を定めていて、書状箱を受取るとリレー式に次の村の一里処に次ぎ次ぎと伝送して行く。この方法によって江戸までは三、四日目に届いた。この「一里持ち」は公儀で定めた制度で各村に課せられた賦役（義務）であった。」

この公儀で定めた制度について『図説盛岡四百年 上巻』にも同様の事が記され、のちに便数が多く要求され大変な迷惑となったとあります。

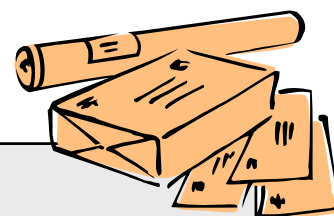
岩手県のものを知りたいということから各市町村史、近世を中心に調べてみました。『水沢市史3(上)』に、奥州では天和三年（1683）「奥州飛脚仲間掟書」が、天保五年（1834）再改めの掟ができ、上下の荷物の請負い、御用状持ちなどの飛脚渡世が行われていたことが、記されています。

『岩手県史 第四巻』には「奥州飛脚掟」十一ヶ条が、『金ヶ崎町史 2』にはそれを意識したものが掲載されています。この掟について「もともとは仙台－福島詰所－江戸間を往復する飛脚業に対するものであったが、これが諸国・諸領の飛脚はもちろん、交通運輸に従事する人々にも適用され、これを堅く守るという連帯的責任感が、これら社会の秩序を保ち、ひいては人々への信頼感をたかめていたと思われる」と同資料に記されていました。きびしい規律があったことを知ることができます。

キーワード： 飛脚 郵便 江戸時代 南部藩（盛岡藩） 伊達藩（仙台藩）

〔調査プロセス〕

1. 当館郷土資料書架 K200 歴史～をブラウジング。
2. 『岩手県史第4巻』を通覧。
3. 市町村史の近世を調査、記述を確認しました。



【参考文献】（ ）内は当館請求記号

1. 『目で見る盛岡今と昔』
吉田 義昭 // 著 盛岡市公民館 1972年 (K/211/ヨ 1/3ウ)
2. 『図説盛岡四百年』 吉田 義昭・及川 和哉 // 編著 郷土文化研究会 1991年 (K/211/ヨ 1/4b)
3. 『岩手県史 第4巻』 岩手県 // 編 杜陵印刷 1963年 (K/201/イ 3/1-4オ)
4. 『水沢市史 3[上]』 水沢市史編纂委員会 // 編 水沢市史刊行会 1981年 (K/231.1/ミ 4/3)
5. 『金ヶ崎町史 2』 岩手県金ヶ崎町 2006年 (K/231.2/カネ/2)

※このレファレンスの詳細は「レファレンス協同データベース」で公開されています。是非ご覧ください。

「レファレンス協同データベース」 <http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>